

# 広島県における災害教訓及び地域の自主防災活動のネットワーク化と次世代への継承に向けた取り組み

中電技術コンサルタント株式会社  
広島大学防災・減災研究センター  
(元)広島市危機管理室災害予防課  
広島市都市整備局都市整備調整課

○石田 響, 桑田 志保  
海堀 正博  
脇田 知茂  
今谷 幸生, 酒井 元樹

広島市豪雨災害伝承館  
広島県土木建築局砂防課  
(元)広島県土木建築局砂防課  
NPO法人SKY協働センター

松井 憲  
宗貞 孝太郎, 狩野 涼介  
古川 真也  
大迫 雅俊

## 1. はじめに

- 広島県では、平成30年7月豪雨災害をはじめとする多くの土砂災害を経験しており、地域で高まった防災意識のもとに、行政側だけでなく、地域住民が主体となった災害教訓の伝承や防災教育の取組が各地で展開されており、NIPPON防災資産に認定されている広島市豪雨災害伝承館や坂町災害伝承ホールに代表される防災施設では、災害教訓の継承や伝承活動を主体的に活動しており、防災教育等を地域住民が主体となって実施している地域が多く存在する。
- このような地域住民が主体の自主的な防災活動については、そのノウハウや課題等を次世代や他の地域に繋げていくための仕組みが不足しており、活動の継承に不安を覚える声が各地域の防災リーダーからあがっている。
- そこで、本取り組みにおいては、それぞれの地域の防災リーダーの活動を、時代を超えて持続させるため、防災リーダーの考え方や活動内容、工夫、秘訣、課題に感じていること、克服に向け必要に感じていること等をまとめて、映像化されたものを通じて相互に共有できるようにすることを目指した。

## 2. 取組手法

### (1) 対象災害および防災リーダーの選定

- 本取り組みでは、広島県内で過去に発生した土砂災害において被災し、地域の自主防災活動を通して、復旧・復興を主体的に担ってきた防災リーダー8名を対象に、ヒアリング調査を実施した。
- 対象災害はいずれも広島県において甚大な被害をもたらした土砂災害を選定した。

表1 対象災害

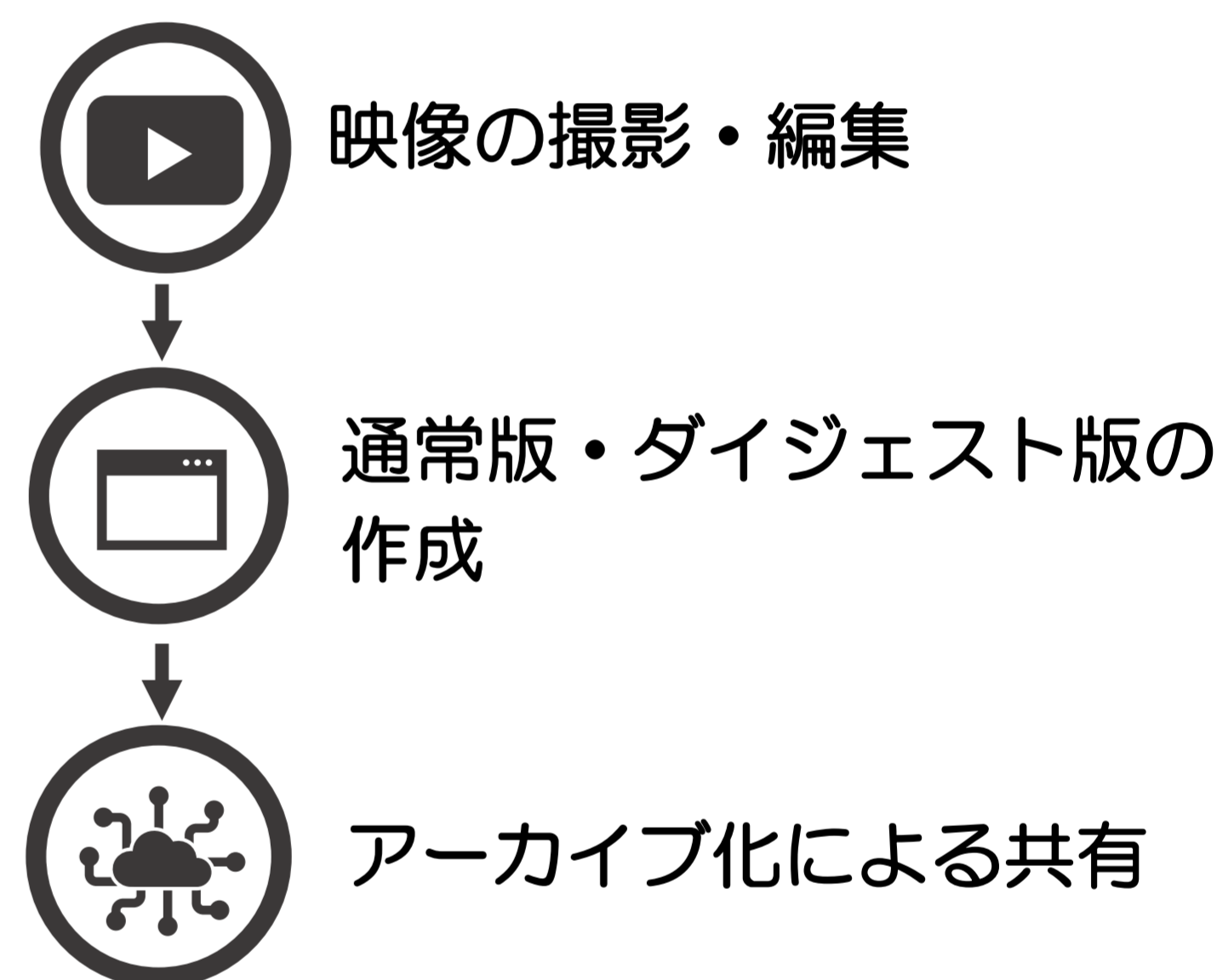
災害名(対象者数)	概要
平成11年6月豪雨災害(2名)	広島市佐伯区や安佐南区、安佐北区、呉市などを中心に崩壊・土石流等が多発し、32人もの犠牲者(うち、24人が土砂災害による)が発生。ハザードマップの公開につながったり、「土砂災害防止法」制定のきっかけとなった災害。
平成26年8月豪雨災害(3名)	関連死3人を含めて77人もの犠牲者の出る甚大な災害。「避難勧告(当時)」発令の遅れが問題視されたり、「土砂災害防止法」改定のきっかけとなった災害。
平成30年7月豪雨災害(3名)	広島県内で109人の死者、5人の行方不明者、その後の災害関連死44人という甚大な被害が発生。「自分ごと化」の重要性、「避難」とは命を守るためにとる全ての行動という認識が一気に広がることにつながった災害。

### (2) 映像化とアーカイブ化への展望

- ヒアリング調査内容は事前に設定した共通のヒアリング項目に基づいて実施し、その内容を映像として記録した。記録した映像は、通常版およびダイジェスト版の映像コンテンツとして整理した。
- 作成した映像は、地域や世代を超えて共有可能な成果物としてアーカイブ化し、自主防災活動の実践知を地域や世代を超えて相互に学び合える仕組みづくりになることを目指した。

表2 ヒアリング項目

	内容
1	被災された災害と被災時の状況(自宅及びその周辺の状況、避難先の状況など)
2	地域防災に積極的に取り組まれるようになったきっかけ
3	取り組んでこられた代表的な内容、工夫、うまく進めるための秘訣等
4	今後に向けて取り組んでいこうとされていること
5	課題や苦労話、次世代の若者や他地域の人たちに向けて、ぜひ伝えておきたいこと等



## 3. 実施結果

- 地域特性や災害の大きさにかかわらず、複数の防災リーダーに共通する考え方や実践が確認された。

- 被災経験を「自分ごと」として伝えるための子どもとその親を巻き込んだ取組
- 日常生活の延長として防災に組み込むための工夫
- 人と人とのつながりを重視した避難体制づくり

- 映像化によって、個人の経験や思いが直接分かりやすく伝わり、文字資料だけでは共有しにくい災害対応の判断や心情も含めて記録に残すことができた。
- これにより、自主防災活動に取り組む次世代の担い手や、他地域の関係者が具体的なイメージを持って学ぶことが可能となったと考えられる。

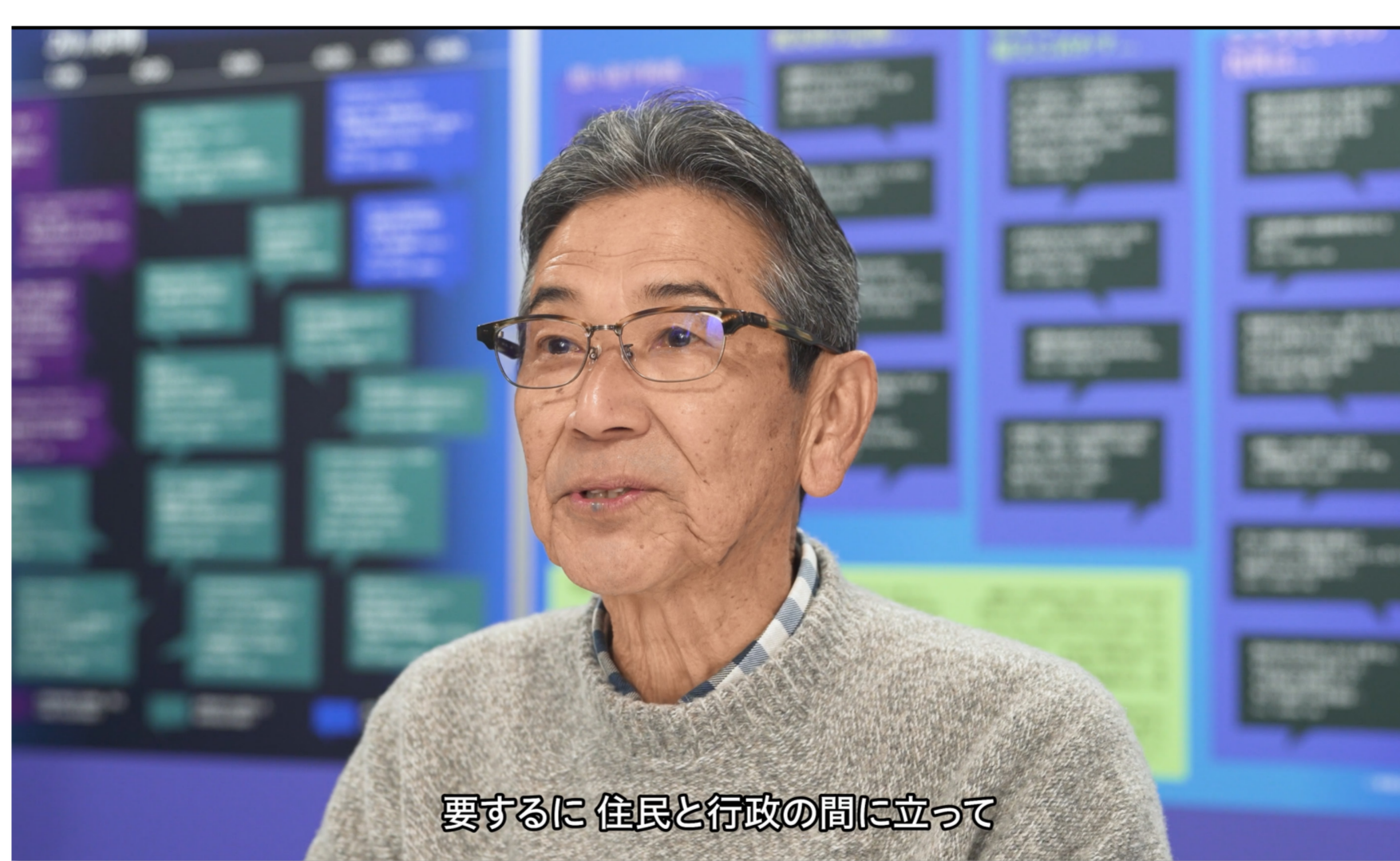


図1 ヒアリングの様子(高岡館長)



図2 ヒアリングの様子(牧野氏)



図3 地域の砂防情報アーカイブサイト(広島県土木建築局砂防課運営)

## 3. おわりに

- 今後、映像資料を広島県が運営する「地域の砂防情報アーカイブ」に掲載し、得られた知見を冊子にとりまとめ、情報共有することで、他の地域とのネットワーク化や防災教育への活用が可能となり、被災体験談や災害の記録誌等と合わせて、将来の防災を積極的に考える若い世代を増やせる効果が期待できる。
- 今後は対象災害およびヒアリング対象者の拡充を図り、実践知を次世代の担い手や他の地域へとつなぐ仕組みの高度化が必要。

## 謝辞

本取組は、内閣府の「令和7年度実践的な防災行動推進に資する災害の記録・課題・教訓の継承等に関する調査・分析業務」における「地域における災害教訓の継承・伝承等に取組む団体等による、新たな実践活動の実施に係る支援業務」の一環として実施したものであります。この場を借りて深く御礼申し上げます。

地域の砂防情報  
アーカイブサイト  
(広島県土木建築局砂防課)

